場所　福島県西白河郡西郷村

面積　47ha

活動目的　体験型森林環境学習の場の提供

サイト概要

福島県甲子高原に位置する三菱製紙株式会社の社有林（村火社有林）であり、三菱製紙が提供するエコシステムアカデミー（従業員ならびに会社事業関係お得意様等ステークホルダーへの体験型森林環境学習の場）の活動場所となっている。

標高約700～850m、日本海側の積雪地帯の気候と太平洋側の気候の境界に位置することから、両者の植生が見られるなど特徴的な生態系を見ることができる。また、エコシステムアカデミーの活動では、このような森を利用した森林・自然観察、林業体験、紙漉き体験、クラフト体験などのプログラムを提供している。

土地利用の変遷

元来はミズナラやクリ等の天然広葉樹林であったが、明治から第二次世界大戦終了までは西郷村にあった軍馬補充部の軍馬放牧地の一部となった。終戦後、昭和30年代から40年代にかけて、三菱製紙パルプ用としてアカマツが植林された。その後、三菱製紙の事業再編により当該地のアカマツを利用することがなくなり、放置様態のアカマツ林となった。2010年に三菱製紙として社会的要請に応え、社有林を利用した体験型環境学習の場としての利用を開始し、現在に至っている。

サイト周辺の環境

日光国立公園第二種区域内であり、鳥獣保護区、緑の回廊に隣接し、特別保護地区は堀川を挟んで接続している。
那須山から続く高原地帯（甲子高原）であり、阿武隈川へとつながる川や沢が流れ、阿武隈川の源流の一部をなす。

アピールポイント

サイト立地を活かした自然と人の共生（森のめぐみを介した自然と産業のコラボレーション）をテーマとした体験型森林環境学習を提供することができる。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

日光国立公園第二種特別地域内にあり、標高 700m～850mに位置し、パルプ用として植林されてから伐採されず約60年経過したアカマツ人工林の一部を体験ゾーンとし、従業員ならびに当社事業のお得意様等ステークホルダーの方々が森の観察や植樹・育樹・樹木計測などの林業体験ができる体験型森林環境学習の場である。第二次世界大戦終了まで軍馬放牧地であった名残の土塁跡を見ることができる。

【主な植生】

本サイトでは、アカマツ人工林、スギ天然林、河畔林、アカマツ-ミズナラ林、ミズナラ林の群落がみられる。

【確認された主な動植物など】

371種の植物（木本：169種、草本：202種）が確認されており、その内に福島県レッドリスト掲載種が複数確認されている。

・植物：福島県レッドリスト掲載種9種
・鳥類：福島県レッドリスト掲載種を含む16種を目視（含：鳴声）で確認している。
・哺乳類は、イノシシ、ニホンジカ、ニホンノウサギ、ホンドタヌキ、などをトレイルカメラで撮影観察している。
・土壌動物（地上徘徊動物）は、2021年596個体、2022年373個体、2023年718個体を確認している。
主な土壌動物はミミズ、ヤスデ、ヒメフナムシ、クモ、ザトウムシ、アリ、カマドウマ、ハネカクシ、オサムシ、ゴミムシ、の仲間など。

写真の説明：体験ゾーン入口から望むアカマツ人工林

写真の説明：第6回生長の森植樹参加者集合

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

阿武隈川の支流の堀川流域にあり、かつて軍馬の放牧場であったところにアカマツ主体の造林をした林、その後、除伐などの手入れをしなくなって現在はアカマツーミズナラ林の相観を呈している。過度の人為を加えておらず、比較的自然性の高い林である。

【確認された希少種】

福島県レッドリスト掲載された希少種として、植物９種、鳥類９種が確認されている。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
＜活動目的＞ 三菱製紙グループのサステナビリティ推進活動として、体験型森林環境学習の場を提供することでグループの企業価値向上を図りながら、生物多様性の大切さを普及することを目的とする。 ＜活動内容＞ サイトを①体験ゾーン、②自然ゾーンに分けて、価値（４）、価値（６）の保全に貢献するように以下の保全・利用活動を行う。 ①体験ゾーン このゾーンでは、体験型森林環境学習の場として森林・自然観察会および植樹・育樹・林業、そのための森林整備および参加者への観察ガイドを行う。具体的には、観察・展示林として下刈り・間伐を行う場所（太陽の森）と行わない場所（月の森）を決め、それに応じた森林整備や観察路での参加者の安全を確保するための草刈り、周辺樹木整備（落枝・枯損木等の処理）を行う。参加者の森林・自然観察を補助するために、観察路に沿った樹木の内、代表的な樹木への名板取り付けを行う。 ②自然ゾーン 下刈り・間伐など人為的介入を行わず自然の成り行きにまかせる。 ＜実施体制、計画の点検・見直し＞ 三菱製紙株式会社総務部エコシステムアカデミー室が中心となってこれら活動を行う。必要に応じて、部分的に外部団体の協力を得ながら行う。 本活動計画は２年に１回点検を行い、５年に１回今後５年間の活動計画を改定する。 尚、FSC-FM認証三菱製紙森林認証マニュアル「環境に配慮した森林管理指針・希少野生動植物保護手順」を遵守する。	**【モニタリング対象】** 植物、土壌動物、哺乳類、野鳥を対象とする。 **【モニタリング場所】** 森の様子の異なる場所（手入れの有無等）を標準地（調査地点）とする。 ①体験ゾーン：13地点（植物（木本）：5地点、土壌動物：5地点、哺乳類：3地点）　②自然ゾーン：6地点（植物（木本）） **【モニタリング手法】** 植物（木本・草本）：直接観察　土壌動物：ピットフォールトラップ法 哺乳類：トレイルカメラによる自動撮影 野鳥：目視・鳴き声確認 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** 体験ゾーン植物（木本）、土壌動物は年に一度。 自然ゾーン植物（木本）は5年に一度。哺乳類は通年でカメラ撮影し毎月データを回収。植物（草本）、野鳥は林内巡視時適宜実施。 **【モニタリング実施体制】** 三菱製紙株式会社総務部エコシステムアカデミー室員が中心となってモニタリングを行う。必要に応じて、有識者「宮下直（東京大学大学院農学生命科学研究科　教授）（土壌動物調査）、中村徹（筑波大学名誉教授）（植生調査）、日本野鳥の会白河支部（野鳥調査）」へ種同定・助言を依頼する。